

製品名: ERK5 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21301**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:88kD;Observed MW:115kD

抗原情報

遺伝子名	MAPK7,ERK5
別名	MAPK7;BMK1;ERK5;PRKM7;Mitogen-activated protein kinase 7;MAP kinase 7;MAPK 7;Big MAP kinase 1;BMK-1;Extracellular signal-regulated kinase 5;ERK-5
遺伝子 ID	5598
SwissProt ID	Q13164
免疫原	ヒト ERK5 の合成ペプチド

背景

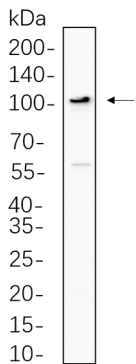
細胞局在: 細胞質、核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は MAP キナーゼファミリーのメンバーである。MAP キナーゼ

は複数の生化学的シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、様々な細胞プロセスに関与する。このキナーゼは、マイトジェン活性化プロテインキナーゼキナーゼ 5 (MAP2K5/MEK5) によって特異的に活性化される。受容体型キナーゼや G タンパク質共役受容体など、様々な受容体分子の下流シグナル伝達プロセスに関与する。細胞外シグナルに応答して、このキナーゼは細胞核に移行し、そこで様々な転写因子をリン酸化および活性化することで遺伝子発現を制御する。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする4つの選択的スプライシング転写バリエーションが報告されている。[RefSeq 提供、2008年7月]

研究分野

-

画像データ



Hela 細胞ライセートを 4~20% SDS-PAGE で分離し、膜を ERK5 ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でブロットニングした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG(H + L)抗体を用いた。